



# 垂米利加 放浪記

【III】

windance



テキストの一部または全部につき、転載、複製、転売などのあらゆる流用を禁じます。

サンプル版のダウンロードを誠にありがとうございます。

以下は本文よりの抜粋です。本文では、高校・大学・大学院と、日本とアメリカを行ったり来たりしながら合計4年をアメリカで過ごした windance のナマの体験をご紹介します。驚きと失敗、感動と挫折に満ちた冒険の数々に、請うご期待！

+++++

## ここはアメリカ？

ボストンの夏は異常に蒸し暑い。汗だくになりながら、大学から紹介されたコンクリートの高層アパートに入居した僕は、この街の独特な雰囲気になんとも面食らった。ちっぽけなコンビニ、うさぎ小屋のようなアパート、アメリカには存在しないと思っていたゴキブリ、両脇にびっしりと車が駐車した狭い道路・・・ カリフォルニアや中西部のカルチャーになじんでいた僕は、ここはアメリカではない、と感じた。

僕のイメージするアメリカとは、新天地を求めてヨーロッパから移住し、理想の地を築き上げようと、エスタブリッシュメントから逃れながらひたすら西へ移動し続けた、開拓者精神に溢れた異端児たちだ。彼らに似合うのは、広大な土地と恵まれた自然、焼いて塩をかけただけの飾らない食べ物などだ。

ボストンやケンブリッジは、そんな開拓者イメージとは無縁、気取ったインテリアもどきがうようよしているといった感じだった。

\*\*\*\*\* 中 略 \*\*\*\*\*

テキストの一部または全部につき、転載、複製、転売などのあらゆる流用を禁じます。

## コース選択

もちろん、コースの選択は学生の自由だ。

修士号取得の条件として規定された単位数をクリアし、担当教授の承認があれば、自分の好きなようにカリキュラムが組める。ただし毎学期開催されるコースは少ないので、綿密なプランニングが必要だ。

最初の2週間ぐらいは興味のあるクラスに自由に参加し、どれに最終決定するかを吟味する。ただし授業は迷っている学生を待ってくれないので、早めに腹をくくる必要がある。いったん履修を決定すると途中で放り出すことはできず、A、B、C、D、Fの5段階で評価される。

評価に容赦は無い。Fは Fail、つまり落第を意味するので、大きな汚点となる。

C以下の成績がつくのを嫌う学生も多く、勝ち目がないと判った時点でドロップアウトする者もいる。ドロップアウトした学科は NO CREDIT というマークがつき、成績表には残らないのでまだましだ。

科目の密度にもよるが、通常、毎学期4つの科目をとる。なんだ、たったの4科目か！などとあなどるなかれ、密度がめっちゃくちゃに濃いのだ。

毎日講義がある科目もあるが、通常は1日置き程度、ただし課題の量が半端じゃない。1日に平均2~3科目の講義に出て、あとは課題に取り組む。

\*\*\*\*\* 中 略 \*\*\*\*\*

テキストの一部または全部につき、転載、複製、転売などのあらゆる流用を禁じます。

## 円形競技場

教壇を中心にぐるりと階段状の椅子と机が配置されたその教室は、円形競技場を思わせる。文字通り、そこでは学生どおしの議論の戦いが繰り広げられるのだ。

それは日本の大学とは全く異なった授業風景で、教授はテーマを提示し、次々と学生を指名しては発言させ、他の学生に反論させ、議論の方向を誘導していく。

著名な学者でもあるが自前の理論を講義することはなく、そんなのはあらかじめ自分で調べて来い、という暗黙の了解があった。

CCMO のクラスも Corporate Marketing のクラスも、ディスカッションの内容が異なるだけで、大量のケーススタディと「円形競技場」は全く同じだった。

学生の発言も常にヒートアップ状態だった。(おいこら、人の話は最後まで聞け)などと躊躇する僕の心境など全く察する気配も無く、ひとりの発言の途中からクラスの半数ぐらいが手を挙げ始める。

発言が成績の50%にカウントされるというこのビジネススクールでは、試験でいくら高い得点を出しても、クラスで黙っていても落第してしまう。

Art of Class Participation、つまり「クラス参加(=発言)の奥義」などという理論を展開している級友もいて、どの教授の場合にはどこの席に座るのがいいのか、彼の自前の理論は何で、どんな話題だと興味を示すか、禁句は何か、などについて、先輩からのヒアリングをもとに、教授ごとに詳細なデータを収集したりしていた。

テキストの一部または全部につき、転載、複製、転売などのあらゆる流用を禁じます。

## 発言のコツ

学部が異なるせいもあって「借りてきた猫」状態だった僕は、やがてひとつのコツを習得する。

\*\*\*\*\* 中 略 \*\*\*\*\* (発言のコツは、本文をご参照ください)

ただし間違ってもアメリカン・アクセントの流暢な英語を使ってはいけない。特に僕の場合は、高校時代に身に付けたアメリカン口語なので馬鹿丸出しといった感じになる。You know… とか I mean… などと口にした途端、一斉に軽蔑の視線を浴びるのは目に見えていた。

## 発言の中身

発音ではなく、中身が問われるのだが、その中身を他の学生に補わせる… この戦略は当たった。

さすがのアメリカ人も、言葉が不自由な日本人を攻め立てるということはしない。中にはイライラとした表情をしている学生もいたが、かつてはアメリカ中のビルを買い漁ろうとしていた金持ち日本人の言うことには一応耳を傾けようという外交精神は持ち合わせているようだった。

四苦八苦しなから何とか言いたいことを表現しようとする可哀相な東洋人に同情してか、教室中は水を打ったように静まり返り、一瞬時間が止まったような異様な風景だった。

テキストの一部または全部につき、転載、複製、転売などのあらゆる流用を禁じます。

僕の発言内容を自分では全く意図しなかった方向に好意的に解釈してくれる学生もあり、多少の論理矛盾は容認された。冷静に内容を分析し反論してくる学生もいたが、あとは適当にあしらえばいい。とにかく一度でも発言しておくことが重要なのだ。

+++++

是非、本文をお読み頂ければ幸甚です。 アメリカン・スピリットに乾杯！

テキストの一部または全部につき、転載、複製、転売などのあらゆる流用を禁じます。

**亜米利加放浪記【Ⅰ】高校留学編（PDF 46ページ）は完全無料！**

「クララの米口語塾」の無料体験配信にご登録いただくと、亜米利加放浪記【Ⅰ】（高校留学編）の本編のダウンロード URL をお知らせいたします。

- [無料体験配信ご登録 ⇒ http://ezamerican.com/rec/try\\_tz.html](http://ezamerican.com/rec/try_tz.html)

配信登録はいつでも変更または解除可能ですので、お気軽にお申し込み下さい。

教材をご購入いただくと、以下の続編【Ⅱ】および【Ⅲ】もおつけいたします。

- [亜米利加放浪記【Ⅱ】大学留学編（PDF ファイル 69ページ）](#)
- [亜米利加放浪記【Ⅲ】大学院留学編（PDF ファイル 60ページ）](#)

テキストの一部または全部につき、転載、複製、転売などのあらゆる流用を禁じます。